



東北復興日記

まだまだ

▶▶▶ 227



織姫の会会長

富田久美子さん

がないほど甘くてやわらかく、いくらでも食べられました。

畑ではトラクターに乗ったり、耕運機を押ししたり、初めての経験ばかり。七月には、織姫の会のメンバーやその家族、企業のボランティアの方々も参加して、皆でワイワイとジャガイモを収穫しました。

福島県いわき市で今年一月に発足した「織姫の会」の会長をしています。会は十人ほどのメンバーがいてさまざまな活動をしています。いわき市は二〇一一年の東日本大震災で、津波、原発事故による放射能汚染、風評被害といった複合的な被害に遭い、農業が苦境に追い込まれました。また、後継者不

耕作放棄地で有機農業

足と相まって耕作放棄地の拡大に拍車がかかりました。そんな中、非食用の作物を栽培しようと、農薬や化学肥料を使用しない有機農

法で在来種の茶綿を栽培するふくしまオーガニックコットンプロジェクトが二二年に始まりました。

小学校の教員を四十年近く務め、退職後は畑仕事をしたいと考えていた私は、娘の知り合いで、茶綿や無農薬野菜を栽培している農家の方を手伝うことになりました。

また、自分で大根の種をまき、世話をして収穫。知人らと一緒に干してたくあんを漬けました。このたくあんは、今まで食べたこと

私は織物を習っていましたので、自分たちで育てた綿を糸にして織り、使えるものを作りたいという思いがありました。それが今年、動きだしたのです。初めはなかなかできなくて、集まったときに皆で話し合い、また家に持ち帰

ってやってみるこの繰り返し。少しずつ糸になってきました。綿がスーツと糸になっていく瞬間は感動です。

来年三月で震災から七年です。紡いだ糸でランプシェードを作り、献灯するイベントのため、毎日糸を紡いでいます。これからもボランティアの方々や綿を栽培し、糸にし、いろいろな物を作っていきたいです。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。